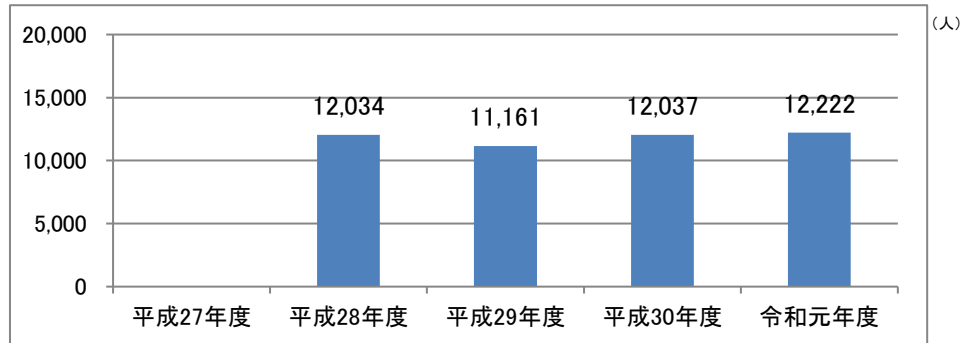


82 年間延べ外来患者数(歯科)

○項目の解説

国立大学附属病院における外来患者数における歯科外来患者数を独立して抽出することにより、医科系での入院外来患者数評価の適正化をはかるとともに歯科系での患者の動向を評価できます。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

当院は、最北端の大学病院であり、地域医療の最後の砦として高度な専門的歯科医療が提供できるよう努めています。医療において、口腔機能の維持・管理の必要性が増えているため、歯科の患者数が多い要因であると考えます。また、当院では、医科歯科連携により患者さんの口腔機能管理を積極的に行っています。外来患者の特徴としては新患率が高く推移していることから、地域連携の効果が出ていると考えられます。しかし、外来の診察スペースなどの物理的要因、診療医、歯科衛生士などの人的要因を考慮すると延べ患者数をそのまま増加させることは、大学病院に求められる医療、教育の質を低下させる恐れがあります。そのため、病診連携など地域連携を積極的に行い、病状の安定した患者さんは、逆紹介により、かかりつけ医での診療を継続するよう勧めています。

○定義

当該年度1年間の、歯学部附属病院、統合された病院の歯科部門、歯学部のない大学病院の歯科口腔外科診療科の延べ外来受診患者数です。

○算式

実数